

新商品! 微量要素資材
リーフアップM+ (エムタス)



NET 200g
(20g × 10個)

保証成分量 (%)

水溶性マンガン	10.0
水溶性ほう素	10.0
水溶性苦土	2.0
効果発現促進材 (%)	
鉄として	0.22
銅として	0.21
亜鉛として	0.21
モリブデンとして	0.10

令和3年1月から、混合微量要素肥料「リーフアップM+」が新発売となる。

●使用方法

必ず200倍液以上に希釈して使用する事。40〜50ℓの水に対して20gの小袋1つが目安。

リーフアップM+はすべてのミズボ資材と混用可能。希釈液同士を混ぜてご使用いただきたい。また、希釈した液は早めに使い切る事。

●特徴と働き、欠乏症と過剰症

植物体内で再移動しにくく、生長部位で常に必要とされる元素もある。それぞれの成分の働きは次の通りである。

【マンガン】

葉緑素の生成、光合成、ビタ

ミンCの合成と酸化還元酵素の活性化に関与している。炭水化物や有機酸、窒素などの代謝に関わる酵素にも含まれる。

○欠乏症

アルカリ土壌でも欠乏しやすく、耐病性も低下する。有機物の多い土壌では微生物の働きで不可給態となる。

上位葉で葉の葉脈の間が黄色くなる。ブドウでは果実が着色不良となる。

○過剰症

酸性土壌で起きやすい。根が黒く変色することがある。葉には褐色の斑点があらわれる。

【ほう素】

水に溶けやすく、pHが高いほど吸収が阻害される。

主に植物の細胞壁を構成する成分である。水分、炭水化物、窒素代謝とカルシウムの吸収、転流に関与する。根や新芽の生育、花芽分化、花粉の発芽と果実の細胞分裂を促進する。

○欠乏症

生長点がとまり、根や新芽の生育が悪くなる。

ハクサイを含むアブラナ科野菜は欠乏症に弱い。ほう素欠乏はカルシウム欠乏症状の発生を助長する。葉の縮れや壊死が起こった際はカルシウムだけでなく、ほう素含有量も少ない。

【鉄】

葉緑素の生成に関与する。鉄酵素として酸化還元反応に関与している。

○欠乏症

若い葉で、葉脈間の黄化や白化がみられる。根が黄変しやすくなる。

【銅】

葉緑素の形成に間接的に関与。光合成や呼吸に関与する酵素にも含まれる。

○欠乏症

葉に黄白化、褐変、よじれなどが生じる。果樹では枝枯れ、新しく伸びる枝の萎縮などがあらわれる。

【亜鉛】

植物ホルモンのオーキシンの代謝に関与する。タンパク質、デンプンなどの合成に関わる成分である。

○欠乏症

出にくいのが、土壤条件により発生する。土中で硫化水素(ガス)が発生した時に、亜鉛と硫化水素が反応して硫化亜鉛となり不溶化し、欠乏することがある。

【モリブデン】

必須元素の中では、最も必要量が少ない元素。硝酸還元酵素の構成金属として、窒素代謝に役立つ。根粒菌の窒素固定にも関与する。

○欠乏症

古い葉で、葉の湾曲やよじれ、葉に黄色の斑点が生じ、茎の伸びが悪くなる。